

第 1 5 9 回

取引先企業景気動向調査

〔平成29年 10-12月 実績〕  
〔平成30年 1- 3月 見通し〕

瀬戸信用金庫

総合企画部

## 調査概要

1. 調査期間 平成29年10～12月を対象に12月上旬に実施した。
2. 調査対象先 瀬戸・尾張旭地区は11業種173社。（うち陶磁器製造業86社）  
名古屋地区は7業種135社。（下表）
3. 調査方法 当金庫の営業店担当者による面接聞き取り調査。
4. 分析方法 各質問事項につき、増加（上昇）したとする企業割合と減少（下降）したとする企業割合の差（DI）を中心にして分析した。

《瀬戸・尾張旭地区》

《名古屋地区》

《瀬戸・尾張旭地区》				《名古屋地区》					
業種	対象企業	有効回答	比率%	業種	対象企業	有効回答	比率%		
陶磁器製造業	ノベルティ	17	17	100.0	製造業	繊維製品	11	10	90.9
	洋食器	9	8	88.9		機械部品	37	37	100.0
	タイル	8	8	100.0		紙加工品	14	14	100.0
	電磁器	20	20	100.0	卸売業	鋼材伸銅	21	21	100.0
	ファインセラミックス	14	14	100.0		建築材料	14	14	100.0
	和食器	19	19	100.0		家具文具	10	10	100.0
陶磁器製造業計	87	86	98.9	— — —		—	—	—	
珪砂製造業	11	11	100.0	— — —		—	—	—	
その他5業種	和食器卸売業	24	24	100.0	— — —	—	—	—	
	電設資材卸売業	18	18	100.0	— — —	—	—	—	
	建築・土木・生コン製造業	17	17	100.0	— — —	—	—	—	
	螺子製造業	17	17	100.0	— — —	—	—	—	
	その他5業種計	87	87	100.0	建設業	30	29	96.7	
瀬戸・尾張旭地区合計	174	173	99.4	名古屋地区合計	137	135	98.5		
合計	対象企業数	311社	有効回答数	308社	回答率	99.0%			

判断指数：（DI）とは、業況・受注・売上・収益の増加企業割合から減少企業割合を引いた数値で、どちらの割合が多いかを比べて、景気がどの方向に向きつつあるかをみる方法である。

（例）前回に比べて売上が増加した企業割合40%、変わらなかった企業割合50%、減少した企業割合10%の場合、判断指数は40－10＝30となる。

判断指数がプラスのとき → 景気上向き

判断指数が0のとき → 景気横ばい

判断指数がマイナスのとき → 景気下向きと読み取る。

## < 陶磁器製造業 >

### 1. 今回調査の景況（10～12月）

業況判断DIは0.0      前回調査比 2.3ポイント低下  
前回見通し比 4.7ポイント低下

#### 《総合評価》

瀬戸・尾張旭地区の陶磁器製造業取引先企業（有効回答企業数 86社）の10～12月の業況についてみると、「業況判断DI」は0.0となり、前回調査（2.3）と比較し2.3ポイント、前回見通し（4.7）と比較し4.7ポイント低い水準となった。前回調査から業況感は若干後退しており、2年連続したプラス圏での推移は一服した。

#### 《業種別評価》

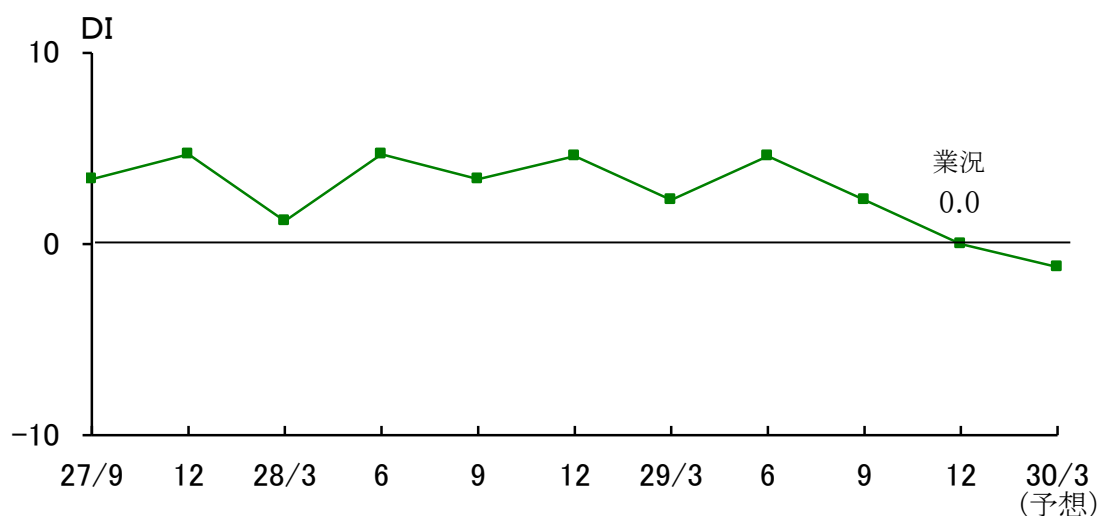
##### ①「業況判断DI」

「プラス」はファインセラミックス、「0.0」は洋飲食器、「マイナス」はノベルティ・タイル・電磁器・和飲食器

##### ②「業況判断DI」の前回調査との比較

「改善」はファインセラミックス・和飲食器、「横ばい」はノベルティ、「悪化」は洋飲食器・タイル・電磁器

### ◎ 陶磁器製造業の業況DI推移



### 2. 今後3か月間の景況見通し（1～3月）

業況判断DIは△1.2、今回調査比1.2ポイントの悪化予想

陶磁器製造業全体での「予想業況判断DI」は△1.2となり、今回調査（0.0）と比較し1.2ポイントの悪化予想となった。

#### 《業種別評価》

「改善予想」は洋飲食器・電磁器、「横ばい予想」は和飲食器、「悪化予想」はノベルティ・タイル・ファインセラミックス

## ◎陶磁器製造業のD I 推移

指標		時期										
		H27		H28				H29				H30.1-3
		7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	(予想)
前回調査比	業況											
		3.4	4.7	1.2	4.7	3.4	4.6	2.3	4.6	2.3	0.0 (4.7)	(-1.2)
	受注額	3.4	3.5	-3.5	0.0	3.4	3.4	-1.1	3.4	7.0	4.7 (2.3)	(4.7)
	売上額	4.6	8.1	-4.7	3.5	4.6	4.6	2.3	4.6	5.8	4.7 (2.3)	(4.7)
	売上数量	8.0	9.3	0.0	3.5	4.6	8.0	8.0	4.6	7.0	11.6 (5.8)	(5.8)
	販売単価	1.1	3.5	4.7	3.5	0.0	3.4	1.1	0.0	-3.5	5.8 (-3.5)	(1.2)
	仕入価格	3.4	2.3	5.8	3.5	1.1	8.0	5.4	0.0	2.3	7.0 (2.3)	(3.5)
	製品在庫	1.1	1.2	-2.3	2.3	0.0	1.1	6.9	4.6	0.0	3.5 (-1.2)	(0.0)
	原材料在庫	1.1	2.3	0.0	0.0	0.0	2.3	5.7	1.1	0.0	4.7 (0.0)	(1.2)
	収益	4.6	3.5	-1.2	4.7	1.1	3.4	3.4	5.7	3.5	9.3 (5.8)	(3.5)
資金繰り	-4.6	-9.3	0.0	-1.2	2.3	1.1	2.3	2.3	3.5	-1.2 (2.3)	(-1.2)	
前年同期比	売上額	5.7	3.5	2.3	8.1	5.7	6.9	8.0	-3.4	2.3	7.0	
	収益	6.9	5.8	-2.3	3.5	1.1	9.2	2.3	2.3	2.3	4.7	
設備投資実施割合 (%)		4.6	4.7	3.5	5.8	2.3	3.4	5.7	4.6	2.3	1.2 (2.3)	(2.3)
平均受注残		9月末 1.9ヶ月	12月末 1.6ヶ月	3月末 1.8ヶ月	6月末 1.8ヶ月	9月末 1.8ヶ月	12月末 1.7ヶ月	3月末 1.8ヶ月	6月末 1.7ヶ月	9月末 1.8ヶ月	12月末 1.8ヶ月	

注. ( ) 内は前回に予想した割合を示す。

景況天気図



# 陶磁器製造業

## <ノベルティ>

### 1. 景況

「業況判断DI」は△5.9、前回調査比±0と、横ばいで推移した。

「受注判断DI」「売上判断DI」は5.9、「収益判断DI」は11.8、いずれも前回調査比5.9ポイント改善した。

### 2. 今後3か月間の見通し

「予想業況判断DI」は△17.6、今回調査比11.7ポイント低下する見込み。

「予想受注判断DI」「予想売上判断DI」は△5.9、「予想収益判断DI」は0.0、いずれも今回調査比11.8ポイント低下する見込み。




### 3. コメント

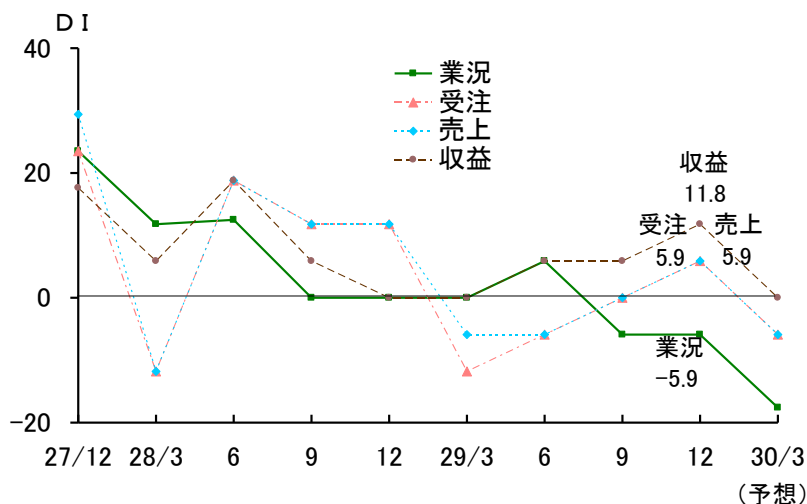
業績面は平成29年1～3月期以降回復傾向が続いているものの、今後3か月間の見通しは回復基調に一服感がみられ、業績・業況ともに先行きに懸念が残る結果となった。

#### ■お取引先の声

- ・取引先からの受注は安定しており、業況は良好に推移。
- ・業況はほぼ例年並みに推移、今後も無難に推移していく見込み。
- ・業績は横ばいで推移。
- ・季節商品である干支の受注が減少傾向。

	前回 平成29年 7～9月	今回 平成29年 10～12月	見通し 平成30年 1～3月
	DI	DI	DI
業況	△5.9	△5.9	△17.6
受注	0.0	5.9	△5.9
売上	0.0	5.9	△5.9
収益	5.9	11.8	0.0

前回 平成29年 7～9月	今回 平成29年 10～12月	見通し 平成30年 1～3月
		



## <洋飲食器>

### 1. 景 況

「業況」「受注」「売上」の各判断D Iは0.0、いずれも前回調査比12.5ポイント低下した。  
「収益判断D I」も0.0、前回調査比25.0ポイント低下した。

### 2. 今後3か月間の見通し

「業況」「受注」「売上」の各予想判断D Iは12.5、いずれも今回調査比12.5ポイント改善する見込み。

「予想収益判断D I」は0.0、今回調査比±0と、横ばいで推移する見込み。




### 3. コメント

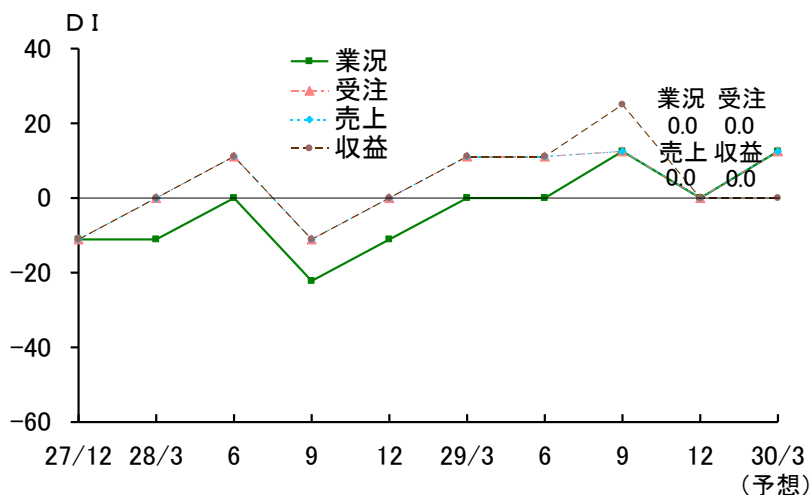
業績・業況ともに、平成28年10～12月期以降続いた回復基調は一服した。なお、今後3か月間の見通しは、再び回復傾向が見込まれており、今後の推移に期待が持てる結果であった。

#### ■お取引先の声

- ・前期並の業績で推移。
- ・大きな変化なし。
- ・売上、利益ともに横ばいで推移。
- ・業況は厳しい。

	前回 平成29年 7～9月	今回 平成29年 10～12月	見通し 平成30年 1～3月
	DI	DI	DI
業況	12.5	0.0	12.5
受注	12.5	0.0	12.5
売上	12.5	0.0	12.5
収益	25.0	0.0	0.0

前回 平成29年 7～9月	今回 平成29年 10～12月	見通し 平成30年 1～3月
		



## <タイトル>

### 1. 景 況

「業況判断D I」は△12.5、前回調査比 12.5 ポイント低下した。

「受注判断D I」「売上判断D I」は 0.0、前回調査比 12.5 ポイント低下、「収益判断D I」は 12.5、前回調査比 12.5 ポイント改善した。

### 2. 今後3か月間の見通し

「予想業況判断D I」は△25.0、今回調査比 12.5 ポイント低下する見込み。

「予想受注判断D I」「予想売上判断D I」は 0.0、今回調査比±0 と横ばい、「予想収益判断D I」も 0.0、今回調査比 12.5 ポイント低下する見込み。




### 3. コメント

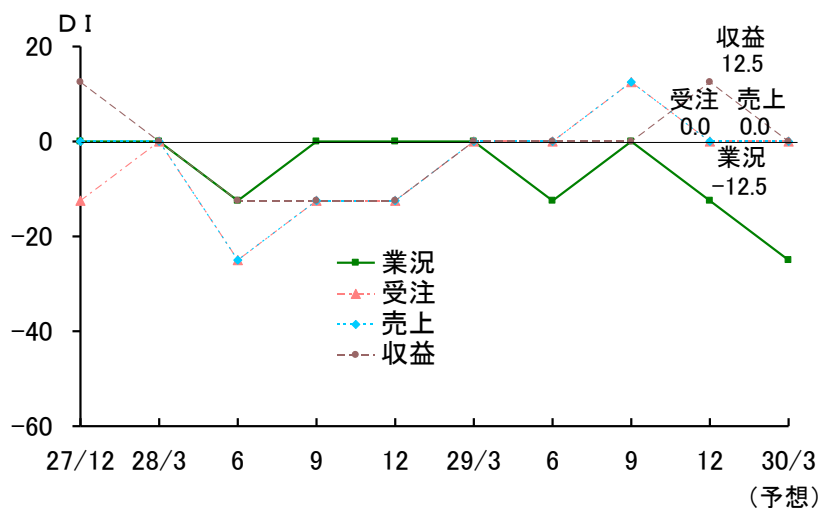
平成 29 年 3～6 月期以降、業績面は回復傾向がみられるものの、業界を取り巻く環境は厳しく、業況感はマイナス圏での推移を余儀なくされている。

### ■お取引先の声

- ・現状維持に努める。
- ・主要取引先の受注停止の影響があったものの、現在は回復傾向。
- ・大きな変化なく受注は落ち着く。
- ・売上・収益ともに大きな変化なし。

	前回 平成 29 年 7～9 月	今回 平成 29 年 10～12 月	見通し 平成 30 年 1～3 月
	DI	DI	DI
業 況	0.0	△12.5	△25.0
受 注	12.5	0.0	0.0
売 上	12.5	0.0	0.0
収 益	0.0	12.5	0.0

前回 平成 29 年 7～9 月	今回 平成 29 年 10～12 月	見通し 平成 30 年 1～3 月
		



## <電磁器>

### 1. 景 況

「業況判断D I」は△5.0、前回調査比 10.0 ポイント低下した。

「受注」「売上」「収益」の各判断D Iは 5.0、いずれも前回調査比 5.0 ポイント改善した。

### 2. 今後3か月間の見通し

「予想業況判断D I」は 5.0、今回調査比 10.0 ポイント改善する見込み。

「予想受注判断D I」「予想売上判断D I」は 15.0、ともに今回調査比 10.0 ポイント改善、

「予想収益判断D I」は 10.0、今回調査比 5.0 ポイント改善する見込み。




### 3. コメント

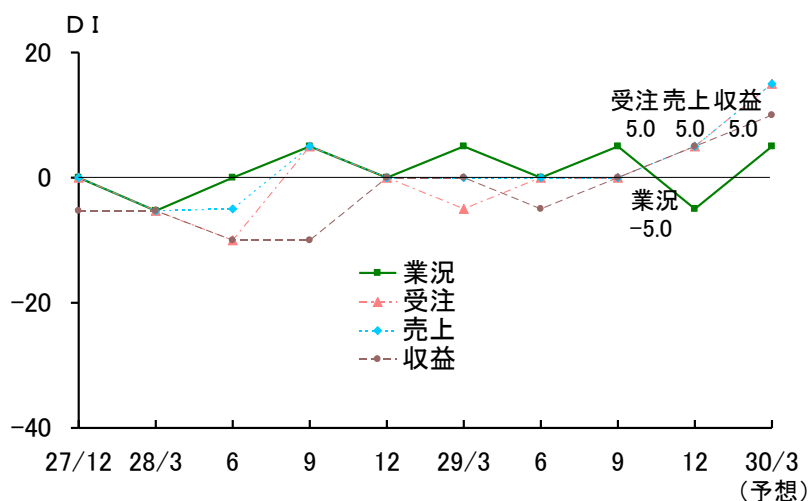
今回調査において、業績面は改善傾向がみられたものの、業況感は低下した。今後3か月間の見通しでは、引き続き業績の回復が見込まれており、業況感にも明るさがみられる結果となった。

#### お取引先の声

- ・ M&Aと生産ラインの更改で生産効率が上昇し、受注・売上は増加傾向、今後も増加見込み。
- ・ 毎期一定量の受注を確保。単価交渉を進め粗利益の改善を図る。
- ・ 業況は安定して推移、今後も堅調な売上が見込まれる。
- ・ 業績は横ばいで推移。
- ・ 売上は一定量確保、資金繰りは苦しいものの一定の利益を確保している。

	前回 平成 29 年 7~9 月	今回 平成 29 年 10~12 月	見通し 平成 30 年 1~3 月
	DI	DI	DI
業 況	5.0	△5.0	5.0
受 注	0.0	5.0	15.0
売 上	0.0	5.0	15.0
収 益	0.0	5.0	10.0

前回 平成 29 年 7~9 月	今回 平成 29 年 10~12 月	見通し 平成 30 年 1~3 月
		





## <ファイナセラミックス>

### 1. 景況

「業況判断D I」は 28.6、前回調査比 7.2 ポイント改善した。

「受注判断D I」「売上判断D I」は 14.3、ともに前回調査比±0 と、横ばいで推移した。

「収益判断D I」は 21.4、前回調査比 14.3 ポイント改善した。

### 2. 今後3か月間の見通し

「予想業況判断D I」は 21.4、今回調査比 7.2 ポイント低下する見込み。

「予想受注判断D I」「予想売上判断D I」は 14.3、ともに今回調査比±0 と、横ばいで推移する見込み。「予想収益判断D I」は 7.1、今回調査比 14.3 ポイント低下する見込み。




### 3. コメント

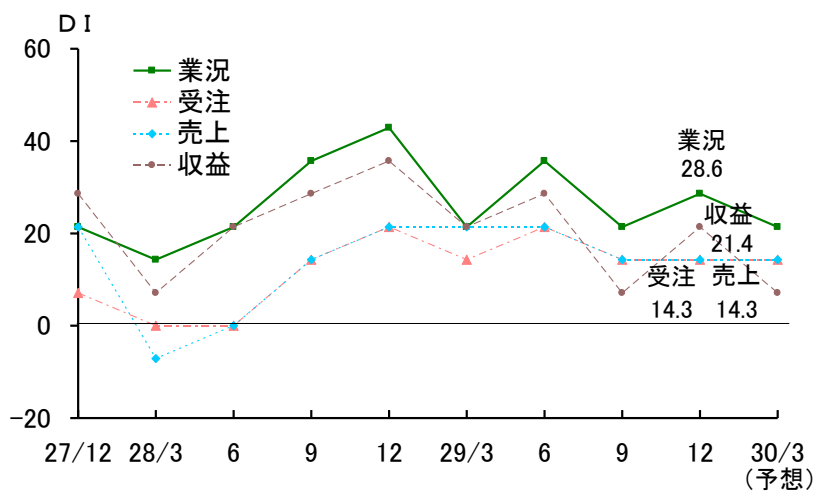
業況・業績ともに好調な水準で推移しており、今後も引き続き好調さを維持する見込み。

### ■お取引先の声

- ・ 3Dプリンターでの製造法を発表。研究開発に積極的。
- ・ 売上は順調に推移。
- ・ 8月より減産体制、売上に大きな影響なし。新工場の建設計画予定あり。
- ・ 現在も人手不足が大きな課題。設備投資資金は十分確保できている。
- ・ 材料仕入価格が上昇したため、粗利が減少。販管費削減により最終利益確保に向け注力中。

	前回 平成 29 年 7～9 月	今回 平成 29 年 10～12 月	見通し 平成 30 年 1～3 月
	DI	DI	DI
業況	21.4	28.6	21.4
受注	14.3	14.3	14.3
売上	14.3	14.3	14.3
収益	7.1	21.4	7.1

前回 平成 29 年 7～9 月	今回 平成 29 年 10～12 月	見通し 平成 30 年 1～3 月
		



## <和飲食器>

### 1. 景況

「業況判断D I」は△5.3、前回調査比 5.2 ポイント改善した。

「受注判断D I」は 0.0、前回調査比 10.5 ポイント低下、「売上判断D I」も 0.0、前回調査比 5.3 ポイント低下、「収益判断D I」は 5.3、前回調査比 10.6 ポイント改善した。

### 2. 今後3か月間の見通し

「予想業況判断D I」は△5.3、今回調査比±0 と、横ばいで推移する見込み。

「予想受注判断D I」、「予想売上判断D I」は△5.3、「予想収益判断D I」は 0.0、いずれも今回調査比 5.3 ポイント低下する見込み。




### 3. コメント

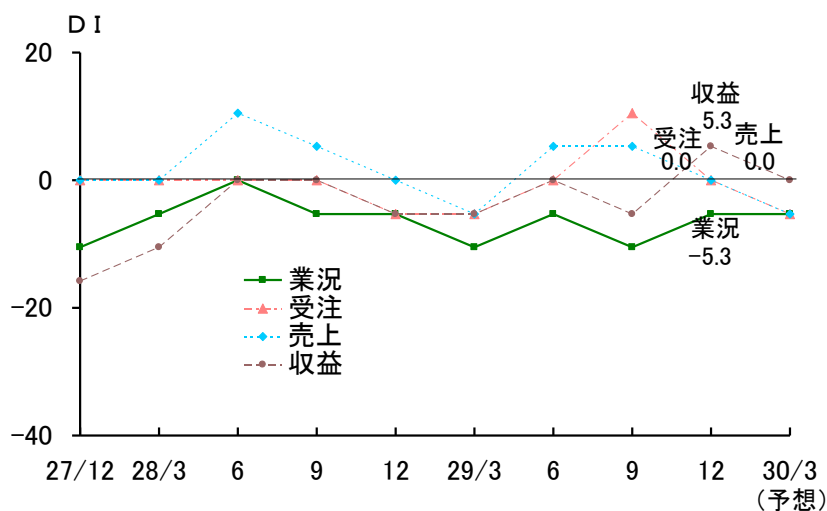
業況感は平成 28 年 4～6 月期以降、マイナス圏での低調な水準にとどまっている。また、今回調査では、回復傾向が見られていた受注・売上面でも弱さが見られており、今後の推移に注意したい。

#### ■お取引先の声

- ・現状維持に努める。
- ・依然として経営環境は厳しいが、利益確保はできている。

	前回 平成 29 年 7～9 月	今回 平成 29 年 10～12 月	見通し 平成 30 年 1～3 月
	DI	DI	DI
業況	△10.5	△5.3	△5.3
受注	10.5	0.0	△5.3
売上	5.3	0.0	△5.3
収益	△5.3	5.3	0.0

前回 平成 29 年 7～9 月	今回 平成 29 年 10～12 月	見通し 平成 30 年 1～3 月
		



## その他 5 業種

### <珪砂製造業>

#### 1. 景況

「業況判断D I」は 18.2、前回調査比 27.3 ポイント改善した。

「受注判断D I」「売上判断D I」は 0.0、ともに前回調査比 9.1 ポイント低下、「収益判断D I」は 18.2、前回調査比 9.1 ポイント改善した。

#### 2. 今後3か月間の見通し

「予想業況判断D I」は 36.4、今回調査比 18.2 ポイント改善する見込み。

「予想受注判断D I」「予想売上判断D I」は 27.3、「予想収益判断D I」は 45.5、いずれも今回調査比 27.3 ポイント改善する見込み。




#### 3. コメント

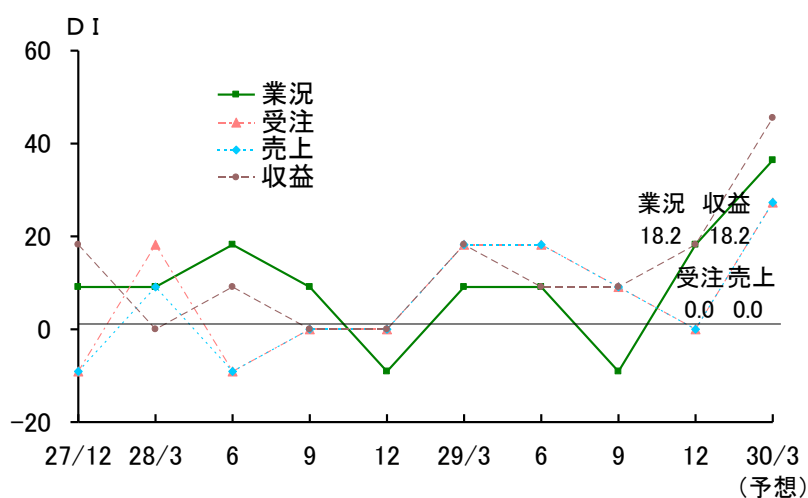
今回の調査では、受注・売上面で回復傾向に一服感がみられたものの、業況感は改善した。今後3か月間の見通しは明るく、業績・業況感ともに大きく改善する見込み。

#### ■お取引先の声

- ・自動車硝子加工部門の売上は好調。販売価格の見直しに成功し、利益率は向上。
- ・新規取引先獲得に向け商談中。大手商社との取引が来年以降開始する見込み。
- ・每期安定した売上を計上、今後も堅調な売上推移を見込む。
- ・業種上の競争は激しいものの、取引先は安定している。
- ・主要取引先からの売上は回復しており、今後も無難に推移する見込み。

	前回 平成 29 年 7~9 月	今回 平成 29 年 10~12 月	見通し 平成 30 年 1~3 月
	DI	DI	DI
業況	△9.1	18.2	36.4
受注	9.1	0.0	27.3
売上	9.1	0.0	27.3
収益	9.1	18.2	45.5

前回 平成 29 年 7~9 月	今回 平成 29 年 10~12 月	見通し 平成 30 年 1~3 月
		



## <和飲食器卸売業>

### 1. 景況

「業況判断DI」は4.2、前回調査比 20.9 ポイント改善した。

「売上判断DI」は4.2、前回調査比 12.5 ポイント改善、「収益判断DI」は12.5、前回調査比 16.7 ポイント改善した。

### 2. 今後3か月間の見通し

「予想業況判断DI」は△4.2、今回調査比 8.4 ポイント低下する見込み。

「予想売上判断DI」は4.2、今回調査比±0と横ばい、「予想収益判断DI」も4.2、今回調査比 8.3 ポイント低下する見込み。




### 3. コメント

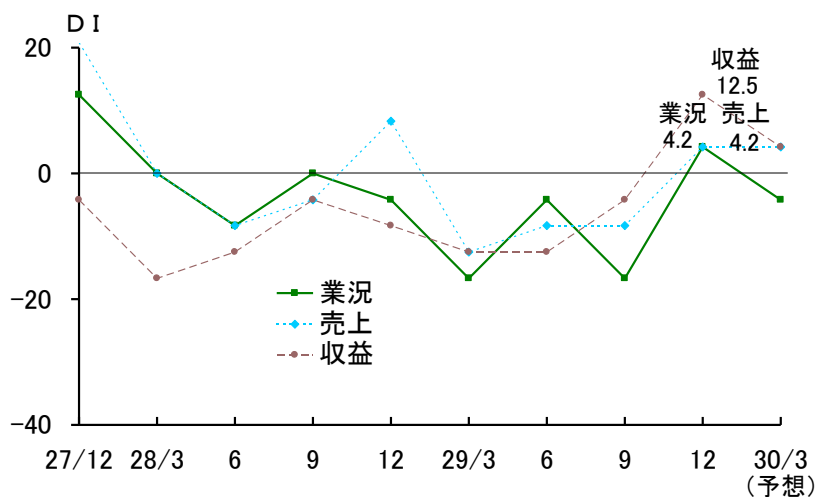
平成28年1～3月期以降、業況・業績ともに低調な水準で推移していたが、今回調査では業況・業績ともにプラスとなり回復傾向がみられた。しかし、今後3か月間の見通しでは弱含みでの推移が見込まれており、先行きに懸念が残る結果となった。

#### お取引先の声

- ・取引先からの大口受注と新規取引先の獲得により売上増加傾向。
- ・商品価格改定（値下げ）により売上増加見込み。
- ・ネット販売の他、陶器市に出店し売上増加を図っている。
- ・現状維持に努める。
- ・市況低迷により依然として厳しい状況。
- ・売上低迷、取引先は年々減少傾向、販路拡大を検討中。

	前回 平成29年 7～9月	今回 平成29年 10～12月	見通し 平成30年 1～3月
	DI	DI	DI
業況	△16.7	4.2	△4.2
売上	△8.3	4.2	4.2
収益	△4.2	12.5	4.2

前回 平成29年 7～9月	今回 平成29年 10～12月	見通し 平成30年 1～3月
		



## <電設資材卸売業>

### 1. 景 況

「業況判断D I」は 5.6、前回調査比 5.6 ポイント改善した。

「売上判断D I」も 5.6、前回調査比 11.2 ポイント改善、「収益判断D I」は 0.0、前回調査比 5.6 ポイント改善した。

### 2. 今後3か月間の見通し

「予想業況判断D I」「予想売上判断D I」は 5.6、「予想収益判断D I」は 0.0、いずれも今回調査比±0 と、横ばいで推移する見込み。

### 3. コメント

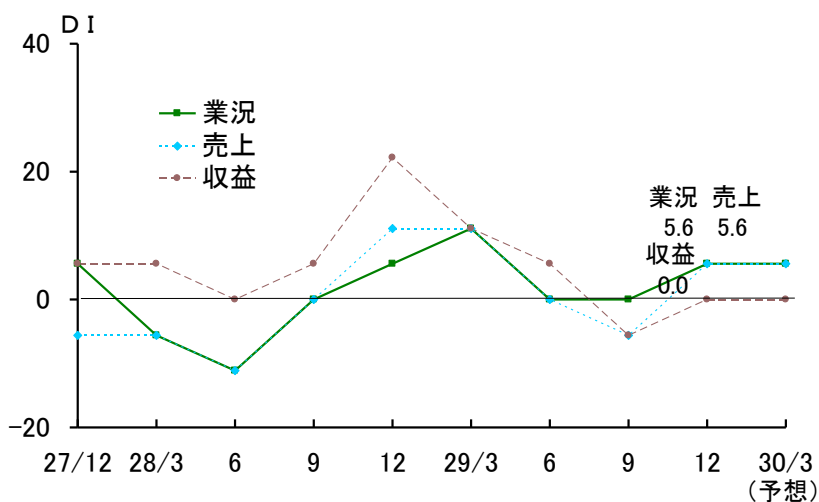
前回調査では、業績面で弱さが見られたものの、今回調査では持ち直しており、業況感も向上した。今後3か月間の見通しでも業況感はプラスを維持して推移する見込み。

#### ■お取引先の声

- ・売上は堅調に推移。大幅に売上が増加する見込みはないものの安定して推移する見込み。
- ・業況は安定しており今後も順調に推移する見込み。
- ・新規営業を積極的に行い、売上・受注は安定。
- ・売上・利益ともに横ばいで推移。
- ・従業員の退職により人手不足が深刻。
- ・業況は厳しい。

	前回 平成29年 7~9月	今回 平成29年 10~12月	見通し 平成30年 1~3月
	DI	DI	DI
業況	0.0	5.6	5.6
売上	△5.6	5.6	5.6
収益	△5.6	0.0	0.0

前回 平成29年 7~9月	今回 平成29年 10~12月	見通し 平成30年 1~3月
		



## <建築・土木・生コン製造業>

### 1. 景況

「業況判断DI」は5.9、前回調査比5.9ポイント改善した。

「受注」「売上」「収益」の各判断DIは0.0、いずれも前回調査比5.9ポイント低下した。

### 2. 今後3か月間の見通し

「予想業況判断DI」は5.9、今回調査比±0と、横ばいで推移する見込み。

「受注」「売上」「収益」の各予想判断DIは0.0、いずれも今回調査比±0と、横ばいで推移する見込み。


### 3. コメント

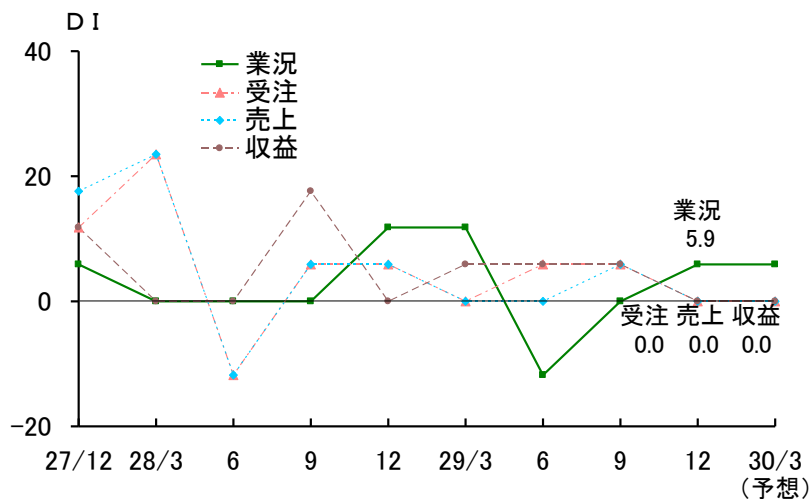
今回調査では、業績面では前回調査と比較し弱さが見られたものの、業況感は改善した。今後3か月間の見通しでも業況感はプラスを維持して推移する見込み。

#### ■お取引先の声

- ・公共工事の受注により売上増加傾向。
- ・受注は安定しており、今後も無難な業績を見込む。
- ・公共工事以外のメーター交換工事の受注・収益増加に努めている。
- ・一般工事等の受注獲得を増やし今後も無難に推移する見込み
- ・売上・利益ともに横ばいで推移。
- ・大きな変化なし

	前回 平成29年 7~9月	今回 平成29年 10~12月	見通し 平成30年 1~3月
	DI	DI	DI
業況	0.0	5.9	5.9
受注	5.9	0.0	0.0
売上	5.9	0.0	0.0
収益	5.9	0.0	0.0

前回 平成29年 7~9月	今回 平成29年 10~12月	見通し 平成30年 1~3月
		



## ＜螺子製造業＞

### 1. 景 況

「業況判断D I」は $\Delta 5.9$ 、前回調査比 $\pm 0$ と、横ばいで推移した。

「受注判断D I」「売上判断D I」は $\Delta 5.9$ 、ともに前回調査比 5.9 ポイント低下、「収益判断D I」も $\Delta 5.9$ 、前回調査比 11.8 ポイント低下した。

### 2. 今後3か月間の見通し

「予想業況判断D I」は $\Delta 5.9$ 、今回調査比 $\pm 0$ と、横ばいで推移する見込み。

「受注」「売上」「収益」の各予想判断D Iは $\Delta 5.9$ 、いずれも今回調査比 $\pm 0$ と、横ばいで推移する見込み。




### 3. コメント

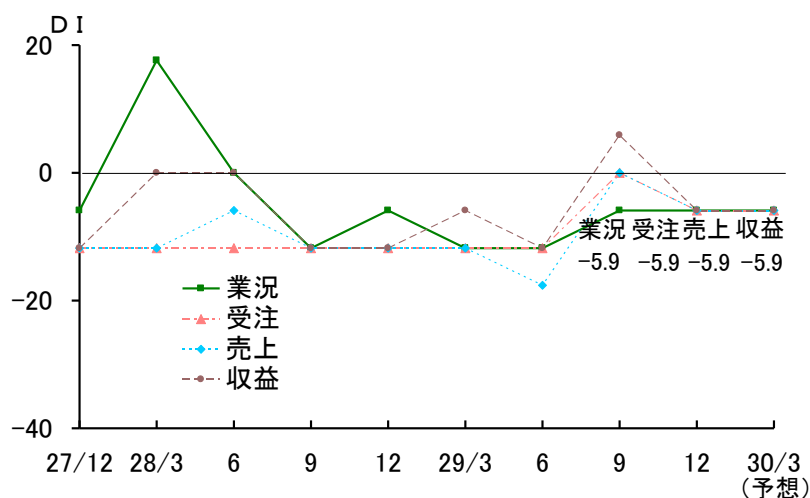
平成 28 年 4～6 月期以降、業況・業績ともに低調な水準での推移となっている。前回調査では、業績面で回復傾向がみられたものの、今回調査では再びマイナスの水準となり、回復傾向を維持することができなかった。

#### お取引先の声

- ・新規取引先増加、新製品の受注もあり売上増加。機械導入計画あり。
- ・バイク部品の好受注が続き前期並みに推移。
- ・一定の売上は確保しているものの、収益は低い。現状、販管費削減に注力中。
- ・主要取引先の内製化により受注は減少傾向。一定の受注はあるものの、今後の業況は不透明。
- ・業況推移は変わらず低調。

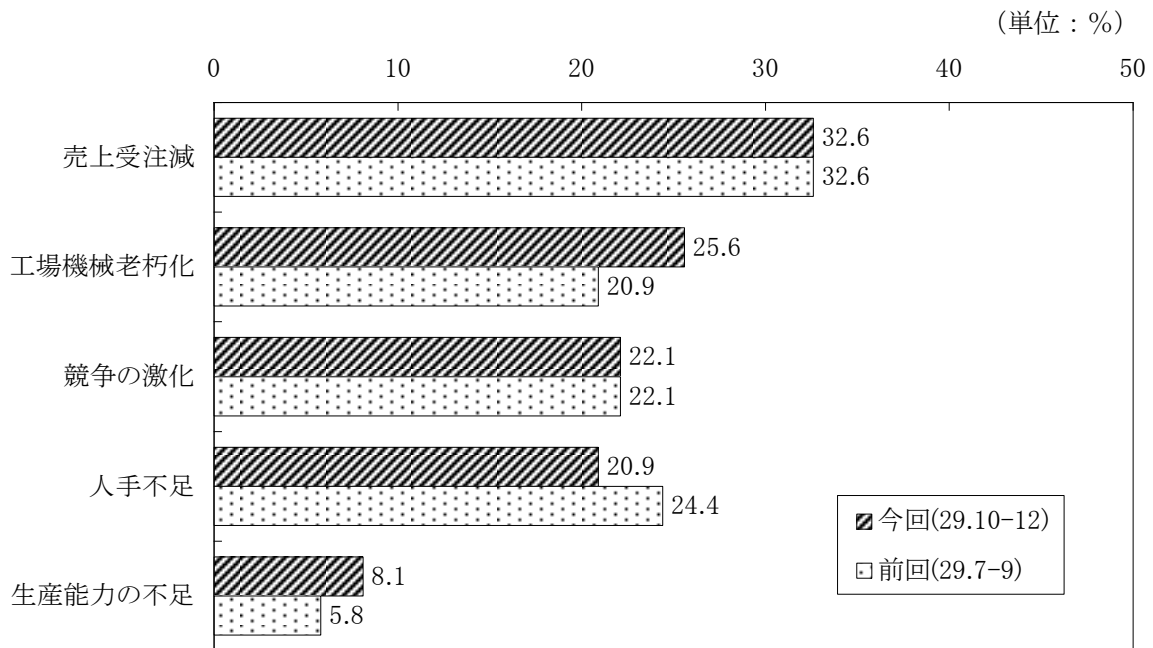
	前回 平成 29 年 7～9 月	今回 平成 29 年 10～12 月	見通し 平成 30 年 1～3 月
	DI	DI	DI
業況	$\Delta 5.9$	$\Delta 5.9$	$\Delta 5.9$
受注	0.0	$\Delta 5.9$	$\Delta 5.9$
売上	0.0	$\Delta 5.9$	$\Delta 5.9$
収益	5.9	$\Delta 5.9$	$\Delta 5.9$

前回 平成 29 年 7～9 月	今回 平成 29 年 10～12 月	見通し 平成 30 年 1～3 月
		



### 経営上の問題点上位5項目（陶磁器製造業）

今回調査では、1位「売上・受注の停滞・減少」、2位「工場機械老朽化」、3位「競争の激化」となった。



※数字は有効回答数に占める割合で1企業が3項目まで回答

### 設備投資の動き（陶磁器製造業）

今回調査では、設備投資の実績は1.2%で、前回実績を1.1ポイント下回った。今後3か月間の見通しは2.3%で、今回実績を1.1ポイント上回る予想となった。

(単位：%)

	前回 29年7-9月期	今回 29年10-12月期	見通し 30年1-3月期
実施あり	2.3	1.2	2.3
土地	0.0	0.0	0.0
建物	0.0	50.0	0.0
機械の新設	100.0	50.0	50.0
機械の更改	0.0	0.0	50.0
その他	0.0	0.0	0.0
実施なし	97.7	98.8	97.7

※内訳の数字は「実施あり」に占める割合で、1企業が複数回答あり。



## 平成30年の経営見通し

特別調査として「平成30年の経営見通し」について、瀬戸・尾張旭地区の11業種173社（うち陶磁器製造業86社）、名古屋地区の7業種135社を対象に、調査を実施しました。結果は以下のとおりです。

なお、全国、愛知県は、信金中央金庫の調査によるもので、調査先は全国15,697先、愛知県736先の結果です。

### 1. 自社の業況見通し

(単位:%)

		良い				普通	悪い				DI (A)-(B)
		(A)	非常に良い	良い	やや良い		(B)	やや悪い	悪い	非常に悪い	
陶磁器製造業計	ノベルティ	17.6	0.0	0.0	17.6	64.7	17.6	17.6	0.0	0.0	0.0
	洋飲食器	25.0	0.0	0.0	25.0	62.5	12.5	12.5	0.0	0.0	12.5
	タイル	12.5	0.0	0.0	12.5	75.0	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0
	電磁器	10.0	0.0	0.0	10.0	85.0	5.0	0.0	5.0	0.0	5.0
	ファインセラミクス	14.3	0.0	7.1	7.1	78.6	7.1	7.1	0.0	0.0	7.1
	和飲食器	0.0	0.0	0.0	0.0	68.4	31.6	31.6	0.0	0.0	△31.6
陶磁器製造業計	平成30年	11.6	0.0	1.2	10.5	73.3	15.1	14.0	1.2	0.0	△3.5
	平成29年	6.9	1.1	1.1	4.6	60.9	32.2	27.6	4.6	0.0	△25.3
その他業種計	珪砂	36.4	0.0	9.1	27.3	45.5	18.2	18.2	0.0	0.0	18.2
	和飲食器卸売	4.2	0.0	0.0	4.2	58.3	37.5	37.5	0.0	0.0	△33.3
	電設資材卸売	16.7	0.0	0.0	16.7	66.7	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0
	建築・土木・生コン	5.9	0.0	0.0	5.9	82.4	11.8	11.8	0.0	0.0	△5.9
	螺子	11.8	0.0	0.0	11.8	70.6	17.6	11.8	0.0	5.9	△5.9
その他業種計	12.6	0.0	1.1	11.5	65.5	21.8	20.7	0.0	1.1	△9.2	
瀬戸・尾張旭地区取引先計		12.1	0.0	1.2	11.0	69.4	18.5	17.3	0.6	0.6	△6.4
名古屋地区取引先計		17.8	0.0	2.2	15.6	63.0	19.3	14.8	3.7	0.7	△1.5
当金庫取引先計	平成30年	14.6	0.0	1.6	13.0	66.6	18.8	16.2	1.9	0.6	△4.2
	平成29年	11.0	0.3	1.0	9.7	65.2	23.9	20.0	3.2	0.6	△12.9
全国	平成30年	19.9	0.3	3.2	16.4	52.3	27.8	22.2	4.8	0.9	△7.9
	平成29年	14.7	0.2	2.4	12.2	50.2	35.1	27.7	6.5	0.9	△20.3
愛知	平成30年	22.8	0.4	3.3	19.1	50.0	27.2	22.4	4.3	0.5	△4.4
	平成29年	15.8	0.4	1.9	13.4	48.3	35.9	28.9	6.2	0.8	△20.2

#### <当金庫>

平成30年の当金庫取引先の業況見通しについては、「良い」が14.6%、「悪い」が18.8%でDI（「良い(A)－悪い(B)」）は△4.2となり、1年前の調査（△12.9）に比べ8.7ポイント改善する見通しとなった。

瀬戸・尾張旭地区取引先DIは△6.4で1年前の調査（△16.7）に比べ10.3ポイント、名古屋地区取引先DIは△1.5で1年前の調査（△8.1）に比べ6.6ポイントと、ともに改善となり、依然DIはマイナスであるものの、マイナス幅は縮小する見通しとなった。

また、全国、愛知県のDIも当金庫取引先と同様に、マイナス幅は縮小した。

#### <陶磁器製造業>

業況見通しは、「良い」が11.6%、「悪い」が15.1%でDIは△3.5となり、1年前の調査（△25.3）に比べ21.8ポイント改善する見通しとなった。

業種別では、1年前に調査したDIと比べると、ノベルティ・洋飲食器・タイル・電磁器は改善しプラス圏に、和飲食器は若干改善が見られるものの、依然マイナスの水準となった。

#### <その他業種>

業況見通しは、「良い」が12.6%、「悪い」が21.8%でDIは△9.2となり、1年前の調査（△8.0）に比べ1.2ポイント悪化する見通しとなった。

業種別では、1年前に調査したDIと比べると、珪砂では改善、螺子は改善が見られるものの、マイナスの水準であった。他の業種ではわずかに悪化する見通しとなった。

## 2. 自社の売上額伸び率の見通し

(単位:%)

		増加				変化なし	減少				DI (A) - (B)		
		(A)	30%以上	20~29%	10~19%		10%未満	(B)	10%未満	10~19%		20~29%	30%以上
	ノベルティ	17.6	0.0	0.0	5.9	11.8	70.6	11.8	5.9	5.9	0.0	0.0	5.9
	洋飲食器	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	62.5	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	12.5
	タイル	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	62.5	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0	12.5
	電磁器	20.0	0.0	0.0	5.0	15.0	70.0	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	10.0
	ファインセラミックス	28.6	0.0	7.1	0.0	21.4	71.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6
	和飲食器	10.5	0.0	0.0	0.0	10.5	78.9	10.5	5.3	5.3	0.0	0.0	0.0
陶磁器製造業計	平成30年	19.8	0.0	1.2	2.3	16.3	70.9	9.3	5.8	3.5	0.0	0.0	10.5
	平成29年	14.9	0.0	1.1	1.1	12.6	66.7	18.4	16.1	2.3	0.0	0.0	△3.4
	珪砂	36.4	0.0	9.1	9.1	18.2	45.5	18.2	18.2	0.0	0.0	0.0	18.2
	和飲食器卸売	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	54.2	20.8	12.5	8.3	0.0	0.0	4.2
	電設資材卸売	33.3	0.0	0.0	11.1	22.2	44.4	22.2	16.7	5.6	0.0	0.0	11.1
	建築・土木・生コン	5.9	0.0	0.0	0.0	5.9	76.5	17.6	17.6	0.0	0.0	0.0	△11.8
	螺子	23.5	0.0	0.0	5.9	17.6	58.8	17.6	11.8	5.9	0.0	0.0	5.9
	その他業種計	24.1	0.0	1.1	4.6	18.4	56.3	19.5	14.9	4.6	0.0	0.0	4.6
	瀬戸・尾張旭地区取引先計	22.0	0.0	1.2	3.5	17.3	63.6	14.5	10.4	4.0	0.0	0.0	7.5
	名古屋地区取引先計	40.7	0.0	0.7	7.4	32.6	45.9	13.3	9.6	2.2	0.0	1.5	27.4
当金庫取引先計	平成30年	30.2	0.0	1.0	5.2	24.0	55.8	14.0	10.1	3.2	0.0	0.6	16.2
	平成29年	22.6	0.3	1.3	4.2	16.8	61.9	15.5	11.9	2.9	0.3	0.3	7.1
全国	平成30年	31.6	0.8	1.5	7.2	22.1	46.4	22.0	16.4	4.1	0.9	0.6	9.6
	平成29年	28.1	0.6	1.2	6.7	19.6	45.3	26.6	19.2	5.4	1.1	0.8	1.5
愛知	平成30年	32.2	0.7	1.4	5.0	25.1	47.1	20.7	14.8	4.4	0.6	1.0	11.5
	平成29年	28.3	1.0	0.8	6.3	20.2	44.6	27.1	19.2	6.5	0.5	0.8	1.2

### <当金庫>

平成30年の当金庫取引先の売上額伸び率の見通しについては、「増加」が30.2%、「減少」が14.0%でDI（「増加(A) - 減少(B)」）は16.2となり、1年前の調査(7.1)と比べ9.1ポイント改善の見通しとなった。

瀬戸・尾張旭地区取引先DIは7.5となり、1年前の調査(2.9)と比べて4.6ポイント、名古屋地区取引先DIは27.4となり、1年前の調査(12.5)と比べて14.9ポイント改善する見通しとなった。

全国、愛知県のDIは、全国は9.6、愛知県は11.5となり、1年前の調査(全国1.5、愛知県1.2)と比べて、大きく改善する見通しとなった。

### <陶磁器製造業>

売上額伸び率の見通しについては、「増加」が19.8%、「減少」が9.3%でDIは10.5となり、1年前の調査(△3.4)に比べて13.9ポイント改善する見通しとなった。

業種別のDIを1年前の調査と比べると、ファインセラミックスは横ばいとなるものの堅調、ノベルティ・洋飲食器・タイル・電磁器・和飲食器は改善する見通しとなった。

### <その他業種>

売上額伸び率の見通しについては、「増加」が24.1%、「減少」が19.5%でDIは4.6となり、1年前の調査(9.2)に比べて4.6ポイント悪化する見通しとなった。

業種別のDIを1年前の調査と比べると、和飲食器卸売・電設資材卸売・螺子は改善する見通しとなる一方、珪砂および建築・土木・生コンは大きく悪化する見通しとなった。

### 3. 自社の業況が上向く転換点

(単位:%)

		すでに上向いている	6か月以内	6か月以内の短期間で好転	1年後	2年後	3年後	3年超	1年以上の中長期間で好転	業況改善の見通しなし
ノベルティ	ノベルティ	5.9	0.0	5.9	17.6	5.9	5.9	11.8	41.2	52.9
	洋飲食器	12.5	12.5	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	50.0
	タイル	12.5	0.0	12.5	12.5	0.0	12.5	0.0	25.0	62.5
	電磁器	5.0	5.0	10.0	15.0	0.0	5.0	30.0	50.0	40.0
	ファインセラミックス	28.6	7.1	35.7	7.1	21.4	0.0	0.0	28.6	35.7
	和飲食器	5.3	5.3	10.5	10.5	5.3	0.0	5.3	21.1	68.4
陶磁器製造業計	平成30年	10.5	4.7	15.1	11.6	5.8	3.5	12.8	33.7	51.2
	平成29年	10.3	8.0	18.4	12.6	3.4	10.3	23.0	49.4	32.2
珪砂	珪砂	27.3	9.1	36.4	9.1	9.1	9.1	0.0	27.3	36.4
	和飲食器卸売	4.2	4.2	8.3	4.2	16.7	4.2	8.3	33.3	58.3
	電設資材卸売	0.0	11.1	11.1	22.2	5.6	5.6	16.7	50.0	38.9
	建築・土木・生コン	11.8	0.0	11.8	17.6	0.0	11.8	17.6	47.1	41.2
	螺子	5.9	5.9	11.8	23.5	11.8	5.9	0.0	41.2	47.1
その他業種計	8.0	5.7	13.8	14.9	9.2	6.9	9.2	40.2	46.0	
瀬戸・尾張旭地区取引先計	9.2	5.2	14.5	13.3	7.5	5.2	11.0	37.0	48.6	
名古屋地区取引先計	16.3	10.4	26.7	11.1	11.1	3.7	17.0	43.0	30.4	
当金庫取引先計	平成30年	12.3	7.5	19.8	12.3	9.1	4.5	13.6	39.6	40.6
	平成29年	9.7	6.1	15.8	17.4	8.7	13.2	17.7	57.1	27.1
全国	平成30年	17.9	8.4	26.3	14.5	9.0	9.8	9.4	42.7	31.0
	平成29年	14.0	8.9	22.9	15.0	10.5	10.3	9.6	45.4	31.6
愛知	平成30年	23.0	8.5	31.5	14.3	10.1	8.0	8.1	40.5	28.0
	平成29年	13.9	9.8	23.7	18.4	10.4	9.4	9.4	47.5	28.8

#### <当金庫>

業況が上向く転換点については、当金庫取引先においては「6か月以内の短期間で好転（「すでに上向いている」と「6か月以内」の合計）」の回答割合が19.8%となり、1年前の調査（15.8%）と比べ4.0ポイント増加となった。「1年以上の中長期間で好転」と回答した企業は39.6%となり、1年前の調査（57.1%）と比べ17.5ポイント減少している。一方、「業況改善の見通しなし」の回答割合は40.6%と、1年前の調査（27.1%）と比べ13.5ポイント増加しており、改善の見通しが立たない企業が増加していることが窺える。

地区別では、「6か月以内の短期間で好転」と「1年以上の中長期間で好転」ともに回答割合が、瀬戸・尾張旭地区取引先に比べ名古屋地区取引先の方が上回っている。一方、「業況改善の見通しなし」の割合が瀬戸・尾張旭地区取引先は48.6%と、瀬戸・尾張旭地区の取引先の方が業況改善の見通しが立っていない結果となった。

#### <陶磁器製造業>

業況が上向く転換点については、「6か月以内の短期間で好転」の回答割合は15.1%となり、1年前の調査と比べて回答割合が3.3ポイント、「1年以上の中長期間で好転」の回答割合は33.7%となり、1年前の調査と比べて回答割合が15.7ポイント減少した。また、「業況改善の見通しなし」は51.2%となり、1年前の調査と比べて19.0ポイント増加し先行き不透明感が強くなった。

業種別では、タイルを除く5業種で「業況改善の見通しなし」の回答割合が増加した。また、横ばいであったタイルや和飲食器は昨年同様に6割以上の企業が「業況改善の見通しなし」と回答しており、業況の低迷が続く見通しとなっている。

#### <その他業種>

業況が上向く転換点については、建築・土木・生コンを除く4業種で「業況改善の見通しなし」の回答割合が増加し、和飲食器卸売では58.3%と高い回答となった。また、電設資材卸売は1年前の調査(0.0%)と比べ38.9ポイント、螺子は1年前の調査(11.8%)と比べ35.3ポイント増加しており、業況の低迷が続く見通しとなっている。

#### 4. 世の中が景気回復を実感できるようになる状況(複数回答)

(単位:%)

	企業収益の改善	賃金の上昇	雇用機会の増加	株価・地価の上昇	物価の安定	社会保障の充実	後向きな話題・報道の減少	海外に関するリスクの低減	その他	どのような状況になっても実感できない
ノベルティ	58.8	17.6	29.4	11.8	23.5	0.0	5.9	5.9	0.0	23.5
洋飲食器	75.0	37.5	25.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5
タイル	75.0	25.0	0.0	12.5	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	12.5
電磁器	75.0	45.0	30.0	30.0	25.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ファインセラミックス	57.1	57.1	28.6	28.6	14.3	21.4	7.1	0.0	0.0	7.1
和飲食器	73.7	26.3	31.6	5.3	21.1	5.3	26.3	5.3	0.0	10.5
<b>陶磁器製造業計</b>	<b>68.6</b>	<b>34.9</b>	<b>26.7</b>	<b>16.3</b>	<b>18.6</b>	<b>7.0</b>	<b>9.3</b>	<b>2.3</b>	<b>0.0</b>	<b>10.5</b>
珪砂	54.5	36.4	45.5	27.3	18.2	0.0	9.1	0.0	0.0	18.2
和飲食器卸売	58.3	37.5	16.7	8.3	20.8	16.7	33.3	4.2	0.0	12.5
電設資材卸売	55.6	44.4	38.9	44.4	33.3	5.6	5.6	0.0	0.0	0.0
建築・土木・生コン	70.6	52.9	23.5	23.5	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
螺子	64.7	58.8	29.4	23.5	0.0	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0
その他業種計	60.9	46.0	28.7	24.1	16.1	5.7	12.6	1.1	0.0	5.7
瀬戸・尾張旭地区取引先計	64.7	40.5	27.7	20.2	17.3	6.4	11.0	1.7	0.0	8.1
名古屋地区取引先計	71.1	43.7	25.2	17.8	27.4	8.9	9.6	3.7	0.7	5.2
<b>当金庫取引先計</b>	<b>67.5</b>	<b>41.9</b>	<b>26.6</b>	<b>19.2</b>	<b>21.8</b>	<b>7.5</b>	<b>10.4</b>	<b>2.6</b>	<b>0.3</b>	<b>6.8</b>
全国	65.2	48.2	21.0	14.9	22.0	16.9	15.9	4.7	1.3	3.5
愛知	63.3	54.1	20.3	16.3	20.7	15.2	18.7	5.5	1.0	2.8

##### <当金庫>

世の中が景気回復を実感できるようになる状況について、当金庫取引先では「企業収益の改善」が67.5%と最も高い回答割合で、「賃金の上昇」が41.9%、「雇用機会の増加」が26.6%と続いた。一方、「どのような状況になっても実感できない」との回答割合は6.8%にとどまった。

地区別では、瀬戸・尾張旭地区取引先は「企業収益の改善」が64.7%、「賃金の上昇」が40.5%、「雇用機会の増加」が27.7%と続いた。名古屋地区取引先は「企業収益の改善」が71.1%、「賃金の上昇」が43.7%、「物価の安定」が27.4%となった。また、「どのような状況になっても実感できない」との回答割合は瀬戸・尾張旭地区取引先、名古屋地区取引先ともに低い結果となった。

全国、愛知県ともに「企業収益の改善」「賃金の上昇」との回答割合が、当金庫と同様に高くなっており、この2項目の達成が景気回復の実感へ向けた企業の認識と思われる。

##### <陶磁器製造業>

景気回復を実感できるようになる状況について、当金庫取引先と同様に「企業収益の改善」が68.6%と高い回答割合となり、「賃金の上昇」が34.9%、「雇用機会の増加」が26.7%と続いた。













業種別では、すべての業種で「企業収益の改善」の回答割合が最も高く、業種により異なるものの「賃金の上昇」「雇用機会の増加」の回答割合が高かった。また、ファインセラミックスでは「社会保障の充実」が、和飲食器では「後向きな話題・報道の減少」が2割以上と高い回答割合であった。

##### <その他業種>

すべての業種で「企業収益の改善」「賃金の上昇」「雇用機会の増加」の回答割合が高かったほか、和飲食器卸売では「後向きな話題・報道の減少」が、電設資材卸売では「株価・地価の上昇」「物価の安定」も高い回答割合であった。

## 景気動向調査結果（名古屋地区）

平成 29 年 12 月

業種		時期	前回	今回	見通し	概 況
		平成 29 年 7～9 月	平成 29 年 10～12 月	平成 30 年 1～3 月		
製 造 業	繊維製品				業況判断D Iは△20.0、前环比 20.0 ポイント改善となった。受注額D Iは 20.0、売上数量D Iも 20.0、ともに前环比 40.0 ポイント改善となっている。 予想業況判断D Iは△30.0、今环比 10.0 ポイント低下の見込み。	
	機械・部品				業況判断D Iは 27.0、前环比 8.1 ポイント改善となった。受注額D Iも 27.0、売上額D Iは 24.3、ともに前环比 8.1 ポイント改善となっている。 予想業況判断D Iは 18.9、今环比 8.1 ポイント低下の見込み。	
	紙加工品				業況判断D Iは△14.3、前环比横ばいとなった。受注額D Iも△14.3、売上額D Iも△14.3、ともに前环比横ばいとなっている。 予想業況判断D Iは△14.3、今环比横ばいの見込み。	
卸 売 業	鋼材・伸銅品				業況判断D Iは 0.0、前环比 4.8 ポイント改善となった。売上額D Iは 23.8、前环比 19.0 ポイント改善。売上数量D Iは 19.0、前环比 14.2 ポイント改善となっている。 予想業況判断D Iは 0.0、今环比横ばいの見込み。	
	建築材料				業況判断D Iは△7.1、前环比 7.1 ポイント低下となった。売上額D Iは△28.6、前环比 21.5 ポイント低下。売上数量D Iは△21.4、前环比 14.3 ポイント低下となっている。 予想業況判断D Iは 7.1、今环比 14.2 ポイント改善の見込み。	
	家具・文具				業況判断D Iは 0.0、前环比横ばいとなった。売上額D Iも 0.0、売上数量D Iも 0.0、ともに前环比横ばいとなっている。 予想業況判断D Iは 10.0、今环比 10.0 ポイント改善の見込み。	
建 設 業					業況判断D Iは 17.2、前环比 6.1 ポイント低下となった。受注額D Iも 17.2、前环比 9.5 ポイント低下。売上額D Iは 20.7、前环比 4.0 ポイント改善となっている。 予想業況判断D Iは 17.2、今环比横ばいの見込み。	

※この天気図は、本調査を総合的に判断して作成したものです。

好 調 ←      → 低 調